事例No.	2626
公表年度	R5
団体の属性	町村
団体名	福島県只見町

事例区分	地域活性化

タグ	・観光 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

福島県只見町

出典

平成28年度ふるさとづくり大賞事例集

地方自治体表彰

福島県只見町

概　　要

国内有数の豪雪地帯で過疎と高齢化が進む中、学術調査により、只見町の自然が世界遺産級であることがわかる。平成18年策定の第六次只見町振興計画において、「ブナと生きるまち雪と暮らすまち」を掲げ、豊かな自然とそこで育まれた伝統的な生活・文化を活かした地域振興に取り組み、翌19年には「自然首都・只見」宣言を行い、貴重な自然を後世まで引き継いでいく責務を宣言した。自然と共生する地域づくりが世界的に認められ、平成26年6月12日に「只見ユネスコエコパーク」に登録された。



評価された点

・ブナ林は我が国における自然の象徴であり、その維持は自然と共生してきた人間社会を持続する原点。自然保護と防災を一体化した考え方で取り組んでいる。人と自然が共生するモデルとして評価。
・長年活動を重ねる中で、ブナを大切にしたいという住民の思いが、現在の地域づくりにつながっている。
・地道な活動は目立たないが未来に向かって続いているものであり、それが世界に認められたことは素晴らしい。
・地域への誇りを取り戻すことと、担い手づくりがその光明を導く策と言われるが、自然と共生する暮らしの有り様と長年の取組を評価。



静岡県三島市

概　　要

少子高齢社会を迎え、市民主体のまちづくりをより一層進めることで、官から民へのまちづくりの主役の交代を図っている。

これまでの主な取り組みとして、構想段階から市民・企業・行政の協働で進めた「街中がせせらぎ事業」、『健幸』都市みしまを目指す「スマートウエルネスみしま」、せせらぎと緑に花や食などを加えて魅力を高める「ガーデンシティみしま」、市民参加型の映画作り「みしまびとプロジェクト」等が挙げられ、いずれもボランティアや市民団体等との協働で取り組んでいる。



評価された点

・長い歴史を持つ住民主体の取組みが今、様々な面で花開いている。住民、行政、企業が協働で進めてきた様々な事業はいずれもまちづくりの先進事例として全国から注目を集めている。人口減少・超高齢社会を迎える中で、市民主体のまちづくり事業が今後どのような形で進化を遂げていくのか、期待を持って見守りたい。
・三島市の取組は「スマートウェルネスみしま」「ガーデンシティみしま」「みしまびとプロジェクト」のどれを見ても、市民・企業・行政の協働が進んでいる。多くの取組において、市民が世代を超えて繋がっており、市民の主体性が評価できる。また、各取組が社会的にも評価を得る事で、シビックプライドが醸成され、より充実した活動を行うなど、好循環が形成されている。
・市民運動からスタートした三島のまちづくりはグランドワークの取り組み、NPOと行政の協働など、常に新しい手法をとりいれながら発展し、地域活性化につなげている。

